

2019019

プロジェクト名 日大日本遺産環境改善部

### プロジェクトの概要

日本の自然遺産・文化遺産の中には、ゴミ問題を抱えているところはいくつかある。その中でも本プロジェクトは富士山のゴミ問題を取り扱った。富士山は文化遺産ではあるものの、ゴミが多いことから自然遺産として認定されていない。そこで、日本大学の学生を募集、そして富士山でゴミ拾いを行い、そのゴミを使ってアート作品を作る。富士山の現状を発信し、ゴミ問題の深刻さを知るきっかけになることを目的としている。

### プロジェクトの結果・成果

富士山に登りながらゴミ拾いを行うつもりだったが、5合目～6合目を下見したところほとんどゴミがなかった。現地のスタッフに聞き富士山のゴミ問題は、車で気軽に行けてしまう樹海でのゴミの投棄が多いことが分かった。そこで、河口湖からのアクセスが容易、樹海ツアーを実施している鳴沢氷穴を対象とした。山梨県へゴミ拾いの許可を取った際に、樹海の中へ入るときは道路から見える範囲でとなったので、鳴沢氷穴と隣接している道路約2kmでの清掃活動を行うことにした。ボランティアの募集は、1人だけとなった。日本大学の学生と限定したこと、チラシ配りは出来ず掲示板でのポスター告知だけだったこと、プロジェクトの内容が明確ではなかったことが要因だと考えた。8月31日にゴミ拾いを行った。ゴミ拾いを行う前に鳴沢氷穴のツアーに参加した。鳴沢氷穴の成り立ち、周辺のゴミ問題、今後行うことなどを聞いた。その後、2チームに分かれてゴミ拾いを行った。ゴミは、ビニール類・缶・ペットボトルが多くあり、そのほかに発泡スチロール・靴・煉瓦があった。ゴミは持ち帰り、アート制作で使えるものと使えないものと分けて、使えるものは洗ってから保管した。10月19日にアート制作を行った。アート制作では4人の学生が参加した。まず、どのようなゴミがあるか把握してもらい、そこから何を作るか考えた。缶やペットボトルを使ったロボットと様々な色がある煉瓦を使ったモザイクアートを作った。作ったものは、自分たちの活動を書いたパネルとともに11月3・4日の桜泉祭にて展示した。富士山の現状を知ってるか調査するためにアンケート用紙を置き、18人が回答し15人が自然遺産だと勘違いしていた。見てくれた人だけでも、富士山の現状を知ってもらえてよかったと思っている。

### 活動写真

